

磯 根 資 源 調 査

赤星 静雄・菅野 溥記・青山 宝蔵

は し が き

昭和43年度から指定調査として、青森県下北郡尻屋地先のエゾアワビを対象に資源量の把握を主体に将来の漁場管理の指針を得る目的で調査を進めてきたが、本年度も引き続き調査を行なった。又、野辺地地先において移殖放流効果調査を実施した。

調 査 方 法

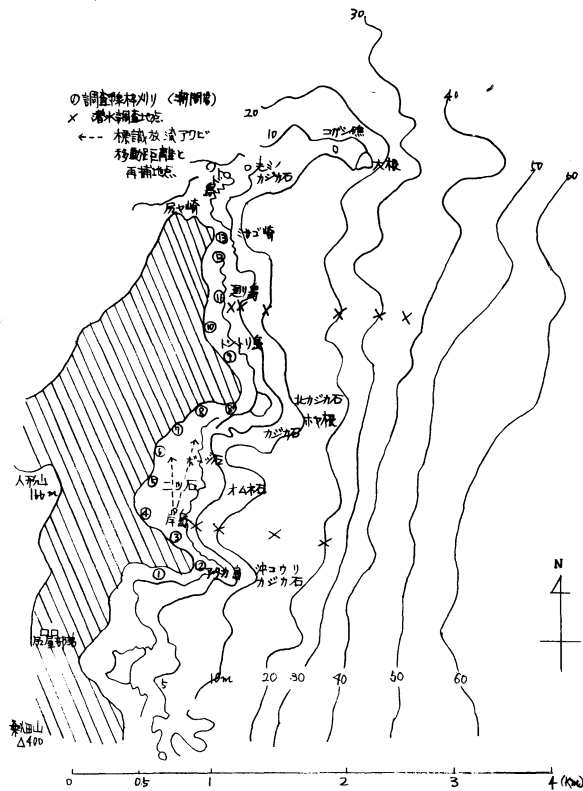
1. 資源量調査

潮間帯については、6月1日～2日の干潮時に行なったが、14の調査線を設定した枠取り(4m×4m)によって実施した。低潮線以深については、2つの調査線を設定して水深別にスキューパー潜水枠取り(2m×2m)によって調査した。

漁場および調査線図は、第1図のとおりである。又42年43年に標識放流されたアワビについて6月、8月に再捕し移動、生長を追跡した。

2. 移殖放流効果調査

6月に尻屋から移殖されたアワビについて、標識放流その他の調査を実施し、7月、8月、10月にスキューパー潜水により移動、生長、生残りなどについて調査した。



第1図 漁場および調査線図

調査結果

1. 資源量調査

尻屋地先で昭和44年6月1～2日に潮間帯の資源量調査をした結果、第1表に示したように約216万個と推定され、昨年の5.7倍と大巾に増加していた。潮間帯のアワビは、第2表に示したように岸から沖へ向うほど数を増していた。また、第2図、第3図に示したように殻長は4.0～6.0cm、全重量は10～40gまでの個体が半数以上を占めていた。

第1表 推定資源量(潮間帯)

調査年月日	1969	1968		1967	1965
	6.1～2	6.11～14	6.28	6.7～10	7.1～4
設定枠数	43	36	10	34	44
1枠内の採取個数	3～1,332	1～153	3～192	2～184	232
1枠内の平均採取個数	277	28	54	56	56
採取アワビ総数	9,701	1,006	542	1,912	2,458
調査時における干潮面の資源量	約2,020,000個	100,000個		200,000個	個
最大大潮時における干潮面の資源量	約2,160,000個	380,000個		400,000個	400,000個

第2表 潮間帯のアワビ枠取り結果

(6.1～6.2'69)

枠取り区調査線	岸I	II	III	IV	合計採取数	平均採取数	調査時の干出距離
1	(個/枠) ₇	(個/枠) ₂₈	(個/枠) ₃₀	(個/枠) ₄₁₀	(個) ₄₇₅	(個/m ²) _{7.4}	(m) _{58.5}
2	10	19	26		55	1.1	65.5
3	355	388	346		1,087	22.6	26.0
4	20	27	345		392	6.1	68.0
5	3	9	161		173	3.6	104.0
6	19	152	400	1,330	1,903	34.0	124.0
7	223	406	262	46	937	14.6	62.0
8	124	191	301	294	910	19.0	67.0
8 ¹	600	191	346		1,137	23.7	48.0
9	678				678	42.3	29.0
10	10	274	341	89	714	12.8	33.0
11	87	294	339		720	15.0	58.9
12	157	194			351	11.0	62.0
13	26	143			169	5.3	29.0
合計採取数	2,317	2,316	2,891	2,171	9,701		
1枠内の平均個数	165.5	178.2	263.4	434.2	225.6	15.7	59.6

(註) 枠の大きさは4×4m

低潮線以深のアワビの殻長、重量とも潮間帯のアワビとほぼ同じ傾向を示した。水深5 mの場所で当年貝(殻長2.5 cm以下)が見出された。深度と共にアワビは減少し、最も分布が濃密なのは、下部潮間帯から低潮線下数mまでであった。

標識放流調査結果2カ年間の増殻長は0.7~1.3 cmで成長は緩慢であった。移動距離は直線にして460~850 mと昨年より大きな移動を示していたが移動方向は同じであった。季節的移動では今年より全般的に低潮線下への移動時期が早かったように思われた。尻屋沿岸の昭和44年1月から45年2月中旬迄の旬平均海水温度は4.3℃~22.6℃の間であった。今年度の種苗アワビの出荷量は移出がはじまって以来の最大で121,500個を移出した。

2. 移殖放流効果調査

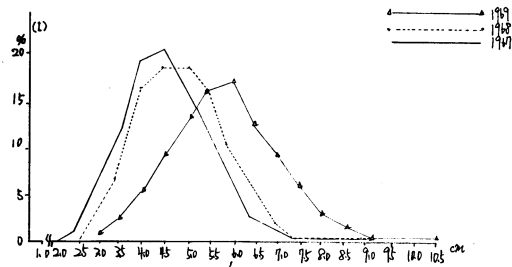
昭和39年野辺地地先の防波柵に放流されたアワビは殻長9.1~12.0 cm、重量140~250 gで成長していたが生存率については試料不足で推定が困難であった。殻長Lと全重量Wの間には $W=1.602L^{2.0173}$ の関係式が得られた。

昭和44年6月16日尻屋から野辺地へ8,700個のアワビが移殖され防波柵に放流された。この内965個に標識を付けた。放流1日後の斃死率は無標識貝5.48%、標識貝8.39%であった。標識放流後4カ月間の最大成長量は0.5 cmであった。放流場所からの移動はほとんどなく、現在迄のところ、高い生残率を示しているものと思われる。

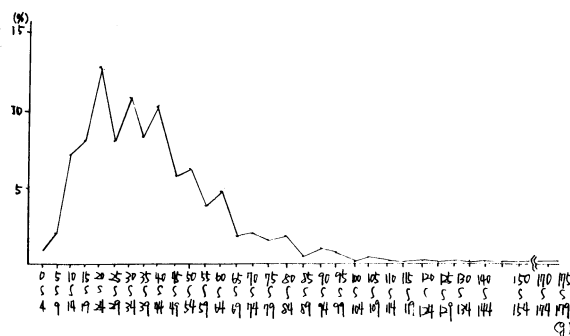
野辺地沿岸の昭和44年1月から昭和45年2月中旬迄の旬平均海水温は4.0~23.5℃の間であった。残された問題点を以下に示した。

資源量調査

さい波帯および低潮線以深5 mまでのアワビ資源量の把握。



第2図 アワビ殻長組成(潮間帯)



第3図 アワビ重量組成(潮間帯)

殻長2cm前後までの若年貝の生息場所の究明。

周年の移動分布状況の究明。

種苗移出が資源量におよぼす影響についての検討。

総合結果から種苗適正出荷量の検討。

移殖放流効果の調査

放流種苗の成長、歩留り追跡調査。餌料海藻の季節的变化の究明。